

令和4年度第3回習志野市発達支援サポートネットワーク会議 議事記録

1. 開催日時 令和5年1月26日(木) 午後3時00分～4時00分

2. 開催場所 市庁舎5階 会議室5-1

3. 出席者

【会 長】 こども部(こども保育課) 主幹 家弓 樹也

【副会長】 指導課 指導主事 大門 賢次

【委 員】 健康支援課 係長 堂前 幸子

菊田第二保育所 所長 牧口 千恵子

袖ヶ浦こども園 教頭 齋藤 麻子

向山幼稚園 園長 関口 扶美

大久保こども園 教頭 金田 了子

子育て支援課 係長 橋詰 信一郎

こども部(児童育成課) 主幹 上野 智子

あじさい療育支援センター 主査 武藤 貴好

ひまわり発達相談センター 主任指導員 清水 郁乃

学校教育部(教育総務課) 主幹 小出 広恵

指導課 指導主事(係長) 近藤 篤史

総合教育センター 指導主事 高橋 大悟

欠席1人

【事務局】 ひまわり発達相談センター

主査 續 竜太郎、副主査 小副川 礼、主任主事 大泉 晴香

4. 議題

(1) インクルーシブ保育・教育に関連する各課の取り組みや連携について

①障がい理解を含めた子どもの行動への理解を深めていくための取り組みについて

②ライフサポートファイルの周知と活用について

5. 会議資料

資料1 第1回ライフサポートファイル作ろう会アンケート結果

資料2 第2回ライフサポートファイル作ろう会アンケート結果

6. 議事内容

(1) インクルーシブ保育・教育に関連する各課の取り組みや連携について

①障がい理解を含めた子どもの行動への理解を深めていくための取り組みについて

- ・医療的ケア児と過ごす子どもたちは、クラスの一員として気にかけ、「何を手伝ったらいいのかな」と子ども同士で関わりあい育ちあう姿が見られる。
- ・園児に向けて人権教育を行った。「みんなちがってみんないい」というメッセージで、ピンクが好きな男の子、電車が好きな女の子などの例に加えて、書いたり作ったりするのが得意な人・苦手な人、走るのが得意な人・苦手な人、みんなそれぞれであることを伝えた。苦手なことやできないことは職員にもあり、恥ずかしいことではなく、皆が認め合って助け合っていこうという学びになった。
- ・児童虐待は子どもの視点に立って支援している。保護者の問題だけでなく子どもの育てにくさに関する相談もある。お子さんへの理解を支援しながらかわり方を学んでもらい、よい対応を一つでも増やしていけるよう時間をかけて支援している。
- ・放課後児童会においても、寝転んでしまう子、当番活動が苦手な子に対し、子どもたち同士で「この子はそっとしておいた方がいいんだよね」「(本人が助けてと言った後に)次はこう言うんだよ」など自然に手を差し伸べ合う場面が見られている。
- ・コロナで中止していたあじさい療育支援センターと習志野特別支援学校の交流があった。年長児が訪問し音楽遊びや小グループでのふれあい遊びなどを行った。2回目の交流も2月にあるので、積み重ねることで学校生活への期待を感じられると思う。
- ・4歳児向けの就学説明会を実施した。通常学級の次が自閉症・情緒学級、その次が知的学級、その次が特別支援学校と思っている保護者も多い。そうではなく、どのような環境の「学びの場」がお子さんにとって学習しやすいのか、よりよく成長できるのかという視点が広がるように、相談を受けていきたい。
- ・習志野特別支援学校では袖ヶ浦東小学校や習志野高校との交流がある。地域とのつながりが切れないうちに交流を続けている。

②ライフサポートファイルの周知と活用について

- ・放課後児童会の申請の際「もし持っていたら持ってきてほしい」と伝える取り組みを始めようと検討している。
- ・情報を引き継いでいくことが重要と考えている。
- ・相談の際持参される方もいる。すべてを見せていただくことは難しいかもしれないが、保護者がファイルを見ることで話す一助になっていると思う。
- ・これまでどんな支援を受けてきたのかを知ることで、お子さんの背景や奥行きを知ることができる。ファイルを知っている人が多くなりすそ野が広がってきていると感じる。
- ・障害年金の申請のためひまわり学園の通所歴を知りたいとの問い合わせがあった。ひまわり発達相談センターに通うお子さんの多くは医療機関への通院がなく、障害者手帳も持っていない方。年を重ねてから手元にライフサポートファイルや情報が残っていると一助になる。ライフサポートファイルの成人向けの様式を案内したところ、持ち帰りたいと言われお渡しした。

7. 決定事項

ライフサポートファイルについては、関係各課・幼児施設のホームページにリンクを貼れるよう検討する。

これまでファイルありきの考え方だったが、「情報をつなぐ」「まとめる」という「考え方」に注目し、さらに普及・啓発の方法を探る。